

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◆教育目標「つながり・チャレンジする 子どもたち・学校」～学ぶ・暮らす・支え合う～を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。</p> <p>◆共生社会の形成に貢献する「特色ある特別支援教育」を推進し、これからの特別支援教育において積極的な役割を果たす学校を目指す。</p> <p>◆全ての児童生徒が、社会の中でより良い生活を実現する力を獲得するために、「わかる」「できる」力を伸ばす教育を実践する学校を目指す。</p>	<p><学校経営></p> <p>各学部、各分掌において役割や年間の流れを確認し、学校経営方針の具現化を目指したマネジメントが行えた。研修会は、各担当で内容を工夫し設定はできたが、参加率が低かった。研修機会の確保や設定の工夫が必要。時間外勤務時間については、9割以上が45時間以内と減少傾向となった。防災会議を設定し、保安体制や災害時の対応について見直すことができた。京都八幡高等学校南キャンパスと合同避難訓練を実施した。ヒヤリハット事象が起こった時には、すぐに情報共有することができた。生徒指導事象に関わって、各関係機関と連携しながら、迅速に対応することができた。学校運営協議会において、各委員の方から学校運営に関わる意見をいただいた。HPをリニューアルし、発信内容や回数を工夫したことで、閲覧数が20%増えた。地域支援センターやわたをとおして、各市町教育委員会等に就学に関わる情報発信を行った。総合教育センタープロジェクト研究において、自立活動部と連携し、協同でアセスメントを実施し、中学校への研究協力を行った。校内のコーディネーターを活用し、ケース相談を行った。</p> <p><教育活動></p> <p>昨年度に作成した「遊びの指導・作業学習のねらい表」をもとにした授業実践を研究し、学部間の繋がりを全校で確認することができた。学部の実態に合わせて、ICT利活用研修を実施した。図書室の環境整備として、寄贈等を活用し蔵書数が増えた。Teamsでの発信を各学部積極的にを行い、京都八幡高等学校とも計画的な打ち合わせのもとに取組を進めることができた。合同研修会等についても検討したい。個々のニーズの把握や実態に応じた実習先を確保し、進路実現に努めた。中学部段階から職場見学等を実施し、保護者からの好評を得た。学部に合わせて進路説明会の内容を設定し、高等部では学年別に実施した。学校HPで進路だよりを公開し、情報発信した。</p>	<p>3つの安心を目指す学校作りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 児童・生徒が安心して学ぶことができる学校 * 保護者・地域が安心して託すことができる学校 * 教職員が安心して働くことができる学校 <p>○学校経営</p> <p>1安心・安全の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な危機管理と安心・安全に対する意識の向上 ・防災教育の充実と非常事態に向けた事前準備の整備 ・法令に基づいた医療的ケアの実施と徹底した感染症拡大の防止の徹底 <p>2コンプライアンス意識の向上と徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育公務員、社会人としての服務に対する意識の徹底 ・人権意識の高揚とあらゆる教育活動とおとした人権教育の推進 ・学校への信頼を高めるためのチーム力の向上 <p>3働きやすい環境作りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府「働き方実行計画」に基づいた業務改善の推進 ・自分を大切にす気持ちと他者の気持ちを大切にす職場環境の形成 ・「来たときよりも美しく」を心がけた環境整備 <p>○教育活動</p> <p>1学習指導要領の趣旨を踏まえた日常的な授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の多様性と可能性を意識した授業の推進 ・学びの連続性の重視と12年間を見通した系統性のある教育課程作り ・情報・図書の充実を図るとともに、ICTを活用した創造性を育む授業の推進 <p>2専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に関わる専門性の向上と自校の課題に焦点を当てた全員参加型の研修会の実施 ・児童・生徒の変化に気が付く、チーム力の向上 ・組織的かつ計画的な教育活動の実施及び内容の精選 <p>3保護者・地域社会との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の思いに寄り添う「地域とともにある学校」作りの推進 ・学校運営協議会を活用し、つながりを意識した地域社会との連携の推進 ・HPや地域資源を活かした、タイムリーな学校情報の提供

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教育目標の具現化・具体化及び組織的な学校経営の推進	各学部、各校務による学校経営方針を具現化するマネジメントを実施する	B	B	<p>各学部、各校務分掌において、連絡・調整を重ね計画的に取り組を進めることができた。</p> <p>出前講座を含め、障害特性や各校務に関わる研修会を実施した。次年度は、より主体的に参加できる研修会の設定を図る。</p> <p>各校務分掌の業務について、業務集中把握シートをもとに整理検討し、次年度に向けた見直しを行った。また、校務における生成AI実証研究に取り組み、活用を図った。</p> <p>計画的な学校防災会議の開催及びプロジェクト研究における防災教育の推進を図り、災害時に備える準備を進めた。また、防災学習についての全体計画を作成した。</p> <p>個別のケースを想定した緊急時対応訓練や、校外を捜索する3号体制の訓練を実施し、非常時の対応を確認した。</p> <p>ヒヤリハット事象発生時には、関係者で迅速な情報共有はできたが、全体への確認や共有が課題</p> <p>個々のケースに対応し、SCや神経科相談、外部関係機関と連携し課題解決に取り組んだ。</p> <p>校内の様子や取組を確認いただき、地域との連携や情報発信の在り方等について、今後の改善につながる意見や助言を得ることができた。</p> <p>HPやがくぷり配信による発信は安定して行えた。より幅広く地域に向けた情報発信の在り方についても検討を行った。</p> <p>新規団体との交流が増え、ねらいに合わせて授業を進めることができた。今後、地域社会のニーズにも合わせた取組を進めたい。</p> <p>個々のケースに合わせて、地域の通級担当者等とも協働し、相談を進めることができた。また、校内コーディネーターと情報共有・検討し、支援にいかした。</p>
		障害特性に関わる専門性向上に向けた全員参加型の研修会等を実施し、全体としての共通認識を図る	B		
		働きやすい職場環境づくりに努めながら、業務内容の改善と精選を行い、働き方改革を進める	B		
	安心・安全を重視した取組の推進	防災教育の充実と非常事態に向けた事前準備の整備を進める	A	B	
		様々な状況に対応できる緊急時対応訓練を実施する	B		
		校内ヒヤリハット事象の迅速な報告、情報共有と教訓化（医療的ケアに限らない）を行う	B		
		いじめ、不登校対応を意識し、児童生徒の一人一人の人権を大切にする取組を推進する	B		
	地域社会に開かれた学校経営の推進	学校運営協議会の円滑な運営及び学校運営等への評価を活用する	B	B	
		ホームページや配信等により、計画的かつタイムリーな教育内容の情報発信を行う	B		
		地域資源を活用し、授業の充実を図る	A		
「地域支援センターやわた」の機能を生かした地域における特別支援教育の推進	各地域や学校のニーズに対する機能的なアセスメント及び相談支援、研修支援を実施する	B	B		
	校内の人材活用、実践の発信をし相談支援を進める	B			
教育課程・学習指導	プロジェクト会議による全校研究の牽引	12年間のつながりを意識し、系統的に学習内容やねらいを整理する	B	B	<p>5つの項目について検討・整理し、次年度の各学部のシラバスや年間計画に落とし込むことができた。</p> <p>ICTの活用の広がりは見られるが、活用方法等について全体として研修を進めることが必要</p> <p>関係機関との連携を広げ、蔵書数も増えた。また、図書室の</p>
	ICTを効果的に活用した実践の推進	ICTを活用した積極的な授業改善に取り組む	B		
		関係機関と連携し、図書環境の整備と充実を図る	B		

					環境整備をすすめ、児童生徒の利用につながった。
新たな交流及び共同学習の創造	京都八幡高等学校との連携を深め、組織的、計画的に取組を進める	B	B		京都八幡高等学校と日常的に連携し、計画的に取組を進めることができた。また、共生社会コースとの新たな形での交流授業に取り組んだ。次年度、行事の取組方の変更に伴い、新たな参加の仕方や目標の見直し等の検討が必要
希望進路の実現に向けた進路指導の充実	各学部つながりを意識し、組織的かつ計画的な進路指導による希望進路の実現を図る	B	B		職場開拓により実習先を広げ、保護者、関係機関と意見・情報の交換・共有をしながら希望進路の実現に努めた。 小中学部の保護者も対象とした中学部進路説明会を実施したところ、多数の参加者がありニーズの高さが感じられた。
	進路実現に向けた保護者への情報提供や研修会における内容の精選と方法の検討を行う	A			

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも高等学校と特別支援学校が併設されていることの意義を踏まえ、共生社会のモデルとなる教育活動の充実を継続していただきたい。地域の小学校、中学校、地域社会との連携を進め「地域とともにある学校」作りを推進していただきたい。 ・地域や企業との連携は、児童生徒の将来の社会参加につながる貴重な取組であり、今後とも推進していただきたい。 ・京都八幡高等学校との交流授業など今後とも工夫改善していただきたい。スポーツ交流会の開催など、地域の小学校、中学校を交えた地域連携の取組を進めてもらいたい。 ・八幡市図書館と連携し、図書環境を一層整備してもらいたい。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を基盤とした教育を一層推進し、引き渡し訓練や日常的な防災教育を充実させることで、安心・安全な学校づくりを進める。 ・スクールパートナーである京都八幡高等学校をはじめ、地域の小中学校や地域社会との新たな交流及び共同学習を検討し、地域に開かれた学校教育を通じてインクルーシブ教育を推進する。 ・児童生徒の可能性が開く授業の実現を目指し、授業改善の取組、情報活用能力（ICT、生成AI等の活用）の育成、言語教育及び図書環境の充実を図る。 ・児童生徒及び教職員のウェルビーイング向上を意識した学校運営を進め、安心して学び、働くことができる学校づくりを行う（組織の検討、改善及び自立活動の質向上に向けたWGの設置）。